

財政状況を踏まえた米国経済の現状と展望

ニッセイ基礎研究所主任研究員
窪谷 浩



- * コロナ対策の大幅財政支出が経済下支え
- * 財政収支の悪化は続いている
- * 利払い費が防衛費を越える
- * 債務上限問題について
- * 個人消費は好調だがローン延滞率も上昇
- * 労働需給のひっ迫も続いている
- * インフレは高止まりする可能性大
- * 利下げ開始は早くても6月か
- * 「トランプ大統領」の政策を考える
- * アメリカ経済はソフトランディングへ

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日の先生をご紹介します。窪谷浩先生はニッセイ基礎研究所の経済研究部主任研究員であります。大阪大学工学部を卒業されて日本生命に入社されて、日本生命の米国法人にも4年強いらっしゃって、そのときには9・11も現場で体験されたということがあります。アメリカ経済については実はもう30年以上ずっと持続的に研究をされていますので、アメリカ経済についてお話しただくには最も適した方だと思ってお招きました。アメリカの政治の話はいろんな方にお話しただくれていますけれども、アメリカ経済を真正面から論じていただく、分析していただくというところは最近あまりありませんでしたので、先生にお願いした次第です。

今回は一つの特徴として、財政面から切ってアメリカ経済の現状と今後の見通しをお話しただく。それから、今非常に話題になっています、もしトラが起きてしまったときどういふことになるのかというリスクについても少し言及していただくということをお願いしております。それでは先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

コロナ対策の大幅財政支出が経済下支え

窪谷 ただいまご紹介いただきましたニッセイ基礎研究所の窪谷でございます。よろしくお願いたします。

本日はたくさんの方にお集まりいただきましてありがとうございます。これから60分程度の